

平成 27 年度「特別支援教育に関する実践研究充実事業  
(特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究)」報告書

団体名	熊本大学
研究開始年度	平成27年度

## I 概要

### 1 指定校の一覧

設置者	学校種	障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立熊本大学	特別支援学校	知的障害	熊本大学教育学部附属特別支援学校 (くまもとだいがくきょういくがくぶぞくとくべつしえんがっこう)

### 2 研究テーマ

コミュニケーション能力を育む教育課程の在り方  
～児童生徒の特性や実態に応じた指導内容や方法の探求～

### 3 研究の概要

(研究内容)

#### 研究課題 1 児童生徒の特性や実態に応じた効果的な指導内容や指導方法の明確化

- 1) 本校が作成した「アセスメントシート」による児童生徒の客観的な実態把握を行う。
- 2) 「アセスメントシート」の結果を用いた児童生徒のコミュニケーションの特性の分析と整理を行う。
- 3) 児童生徒一人一人の教育的ニーズを基にした指導内容や方法の検討を行う。
- 4) コミュニケーションの特性に応じた指導内容や方法の分析と整理を行う。

#### 研究課題 2 教育活動全体で各学習を相互に関連付けたコミュニケーション指導の検証

- 1) 「コミュニケーションの学習」とその他の学習における指導内容の検討を行う。
- 2) 「コミュニケーションの指導計画シート」を基に相互に関連付けた指導を行う。
- 3) 各学習場面における評価を基にした検証を行う。

#### 研究課題 3 学習評価を基にしたコミュニケーション能力を育む教育課程の評価・改善

- 1) コミュニケーション能力の育成に必要な観点の明確化と指導内容の体系的整理を行う。
- 2) 児童生徒に設定したコミュニケーションの指導内容の観点の明確化を行う。
- 3) 各学習における評価規準を基にした学習評価を行う。
- 4) 学習評価を基にした教育課程の評価・改善を行う。

(評価の観点及び評価方法)

1) 評価の観点

児童生徒の特性や実態に応じた指導内容や方法の明確化，教育活動全体を通じた取組により，児童生徒のコミュニケーション能力が向上したか。

2) 評価方法

(1) アセスメントシートや評価基準による児童生徒の客観的評価を行う。

(2) 研究推進委員会を設定し，研究内容や方法，指導内容等の妥当性の評価を行う。

(3) 研究発表会を開催し，特別支援教育に携わる方々による幅広い外部評価を行う。

#### 4 研究の成果

(成果)

**1) 児童生徒のコミュニケーションの特性や実態に応じた指導内容の明確化**

児童生徒のコミュニケーションの特性を4つのタイプに類型化し，それぞれのタイプの児童生徒に設定された指導内容を分析・整理することで，特性に応じた効果的な指導内容を明らかにすることができた。

**2) 教育活動全体を通して各学習を相互に関連付けたコミュニケーションの指導の成果**

特設の学習時間「コミュニケーションの学習」において自己理解や他者理解などのコミュニケーションマインド（内面）を育むための協働的な学習を積み，その他の学習と相互に関連づけたコミュニケーションの指導に取り組むことで，児童生徒に設定されたコミュニケーションの目標がすべて達成されたことから，その有効性を実証することができた。

**3) 学習評価を基にした教育課程の評価・改善**

本校が作成した『観点毎の指導内容表』を基に，学校全体で評価規準を共有し，教育活動全体に渡ったコミュニケーションの指導を行い，各学習場面における評価結果を分析・整理することで，現行の教育課程の評価と改善を行うことができた。

**4) 地域のニーズに応える研究内容**

研究発表会において，特別支援教育に携わる方々から本校の研究内容は教育実践に活用できるとの意見を数多く頂き，県内外の教育実践のニーズと合致する研究内容であったことを確認できた。

## 5 課題と今後の方策

(課題)

### 1) コミュニケーションマインド（内面）を育む指導内容や方法の更なる充実

コミュニケーションスキルを学ぶ意義を再確認するとともに、人とかかわる意欲や自己理解・他者理解等の内面を育む指導内容や方法のより一層の充実を図り、学校全体で系統的な指導を行う必要がある。

### 2) 家庭や福祉機関と相互に連携を図ったコミュニケーションの指導

学校教育全体で児童生徒のコミュニケーション能力を育むための指導の充実を図るとともに、家庭や福祉機関と児童生徒の様子や支援方法について共通理解を図りながら、生活全般に渡って指導の成果が現れるよう支援を拡げていく必要がある。

### 3) 一貫したキャリア発達支援の観点を踏まえた学びの充実

小学部段階からのキャリア発達支援について、一人一人に応じた自立や社会参加を促す観点から育成すべき資質・能力を明確化するとともに、社会的・職業的自立に結びつける体制や学びの充実を図る必要がある。

### 4) 地域への研究成果の還元

コミュニケーションの指導に関する研修会を定期的に開催し、本校で蓄積してきたコミュニケーションの指導内容や方法等について、地域の小学校・中学校・高等学校に向けて積極的に発信し、特別支援学級だけでなく特別な支援を要する児童生徒が在籍する通常学級等に還元できるよう普及に努める。

### 5) 教師の専門性の向上

次期学習指導要領等を見据えた全国の先導的な研究についての情報収集や専門的な研修、校内授業研究会への参加を通して、教師の専門性の向上を図り、児童生徒への指導・支援の質を高める。